

風疹
注意報
!!

風疹の流行をどう防ぐ？

風疹患者が首都圏を中心に急増しており、今後全国に広がるのが懸念されています。自分自身だけでなく、家族と一緒に働く方を風疹から守るために、正しい知識を身につけましょう！

そもそも風疹ってどんな病気？

- 主な症状は発疹・発熱・リンパ節の腫れ
- 咳、くしゃみの飛沫から感染
- 潜伏期間は14～21日。症状が出る前から非常に強い感染力を持つ
- 感染者の約15～30%は症状が出ないが、感染力あり
- 通常は自然に治るが、まれに脳炎など重症化する



感染に気づかず、知らないうちに
他の人にうつしてしまうことも！



風疹といえば、子どもの感染症というイメージがありますが、今回の流行は、30～50代の男性患者が多いのが特徴です。

39歳以上の男性は、過去に定期接種を受ける機会がなかったことが影響しています！



まずは、自分が風疹ワクチンを接種しているか、母子手帳で確認を！

子どもの頃、風疹にかかったと親から聞いている人も、症状だけで判断され、実際は風しんでなかった可能性も指摘されています。

風疹を予防するには？

風疹は予防接種で予防できます！

最も重要なのは、「**妊婦に感染させない**」こと！！

妊娠初期（とくに妊娠20週頃まで）に感染すると、赤ちゃんの目や耳や心臓にさまざまな先天異常が起こる危険があります。

それぞれの立場で、できることを！！

- **妊娠中は、予防接種を受けられません！**
女性は妊娠前に抗体検査をし、抗体価が低い場合は必ず予防接種を受けましょう。 ※接種後2か月は避妊が必要
- 生活を共にする家族だけでなく、長時間同じ環境で過ごす職場の同僚の方も、風疹を発症しないようにすることが大切です！
- 成人男性で、風疹ワクチンを受けたことのない方、風疹にかかったことがない方、どちらも不明な方は、積極的に予防接種を受けましょう！

予防接種の必要性は、抗体検査でわかります！

- 抗体検査を受けずに予防接種を受けることもできます。すでに抗体のある人が予防接種を受けても、問題ありません。
- 自治体で抗体検査や予防接種の費用を助成する動きがあります。ぜひ、お住まいの地域の保健所などに確認を！

保健所

風疹にかかってしまったら？

感染拡大防止のため、他人にうつさないことが大切！

- 風疹は感染力が強いため、風疹を疑う症状があれば、無理をして職場に行かず、医療機関を受診しましょう！
- 医療機関で風疹と診断されたら、主治医や上司等と相談し、発疹が消えるまで休むことを検討しましょう！
- やむを得ず外出する際は、マスクを着用し、できるだけ人混みを避けましょう！

